



(かっぱの絵：シンボルマークです)

NPO 法人近畿水の塾 ニュースレター 第1号  
2007(平成19)年2月1日  
URL : <http://www.geocities.jp/mizunojuku/>

# NPO法人 近畿水の塾

川に関わる人と暮らしのつながりを考えるプラットフォーム(集合場所) かな?

—ニュースレター第1号をお届けします—

## 【NPO 法人近畿水の塾って何?】

NPO法人近畿水の塾は、2000年9月に京都府八幡市で行なわれた、「第3回川に学ぶシンポジウム in近畿」の実行委員のメンバーが中心となり、



“近畿水の塾”は、人と水との関わりの実践やその連携を通じて、市民による地域づくり、環境づくりをしたいと考えています。

2002年8月に設立されました。近畿各地の行政担当者、コンサルタント、民間人など、正会員53名、賛助会員の方とあわせて70名程が参加しています。私たちは、人と水との関わりの実践やその連携を通じて、市民による地域づくり、環境づくりに寄与することを目的として活動しています。基本的にはボランティア活動です。専従職員はいません。事務局機能は2006年10月現在、摂南大学都市環境システム工学科(寝屋川市内)の澤井研究室にあります。

## 【ごあいさつ】

理事長 福廣 勝介(ふくひろ しょうすけ)



近畿水の塾の活動はボランティアです。メンバーはこれまで、近自然工法、ダム問題、自然復元、子どもと川との橋渡し、そして、そうした環境での人々の暮らしなどをテーマに各地域での様々な活動をしてきました。様々なメンバーが様々な活動をです。お互いの活動を尊重し、応援しあって、ネットワークを広げてきました。メンバーには、行政職員も多いのですが、どちらかと言えば、「マイナーな活動」をしている人が多いようです。

僕自身のことと言えば、家の裏の水路の三面貼り計画で、強く、川・自然を意識した事がこうした活動に関わるきっかけになりました。それよりも以前ですが、冬のダム建設現場の谷底に、車ごと転落し、生死の境目を彷徨った事も潜在しているかもしれません。

いずれにしても、川に関わる人のネットワークが大好きです。これからも、先輩・後輩達に教えを乞いながら、一人の地域住民として、水の塾に関わり続けたいと思っています。

ほんとは理事長と言う肩書きは気恥ずかしい。しかし喋りだと言うので推されて、表に出ています。(某理事から一言：人のネットワークとお酒好きは誰にも負けない、親父ギャグ大好きな関西人。)事務局は奮闘の摂南大・澤井研究室。会員もそれぞれ仕事を持っており専従がないので、理事会・会員の2層のメーリングリストで日常的情報交換をしています。毎月「河川塾」と言う月例会を、JR森ノ宮に近い「大阪府環境プラザ」で開催しています。会員外の方もどうぞお誘いの上、「ちょおっと覗いて見てごらん」です。アフターの三水偏(さんすいへん)2次会も、本音交換の場として、いつも楽しく、盛り上がっています。

今日は、やっとの思いの、ニュースレター第1号をお届けします。

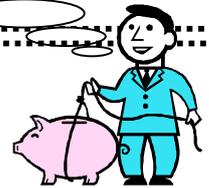
## 【近畿水の塾 設立の経緯】

水環境に関わるシンポジウムなどの実行委員に自発的に参加していた市民、行政職員、団体職員、会社員等が、回を重ねるごとに仲間の輪を広げていき、1996年にネットワーク団体「近畿水の塾」をつくりました。その後、近畿圏における流域内連携及び流域間連携活動の拠点としての、より多様な活動展開を目指すため、任意団体からNPO法人「近畿水の塾」に発展しました。

## 【設立までの主なできごと】

- 1992年10月 近自然工法国際フォーラム（兵庫県西宮市）に実行委員として、メンバーの一部が参加。スイスの専門家に講演していただく。
- 1994年7月 「第11回自然環境復元研究会シンポジウム」（兵庫県尼崎市）に実行委員として、メンバーの一部が参加
- 1995年10月 「大和川河川塾」（大阪府堺市）に実行委員として、メンバーの一部が参加
- 1996年11月 「第4回水環境シンポ&交流会近畿大会」（大阪府枚方市）が開催される。その実行委員会で出会った仲間達から、ネットワーク団体「近畿水の塾」は生まれ、近畿圏の水環境に関わる志ある市民、技術者、行政担当者等をつなぐネットワークとして活動を続ける。
- 2000年9月 「『川に学ぶ』シンポジウム in 近畿」（兵庫県尼崎市及び京都府八幡市）の実行委員会に合流する。シンポジウム後は、近畿圏における流域内連携及び流域間連携活動の拠点としての、より多様な活動展開が期待されるようになった。川に学ぶシンポ後は河川塾を月1回定期的に実施。
- 2000年～ NPO法人設立準備会（有志）
- 2002年3月 設立総会
- 2002年8月 NPO法人 近畿水の塾 設立

近畿水の塾は、一見お堅い感じがしますが、どちらかというとおおらかに、自由に、活動と学習、交流をしています。



## 【していること】

人と水との関わりに係る学習、事業、交流などを行っています。

### ○河川塾の開催：

毎月第3水曜日 19:00～JR 森ノ宮駅から南東に5分。大阪府環境プラザにて学習会をしています（公開）。参加費は会員500円、会員外1000円です。現場を見てお話をうかがうフィールドワークも不定期に実施しています（日時は変更になる場合もありますのでご確認ください）。

### ○拡大版河川塾の開催：

不定期にその時期のトピックになる課題について、その専門家を招いて学習会をしています。2005年は、吉野川第十堰と緑のダムについて（吉野川みんなの会：姫野雅義さん）。市民も参加する公共事業と阿賀に生きる上映会（新潟大学教授：大熊孝さん。映画監督：佐藤真さん）などをしました。

### ○近畿水環境交流会：

「活かそう水辺、つなごう流れ」をモットーとして、実行委員会に参加しています。2005年は、和歌山紀ノ川河口部を舞台としてシンポジウムと、河川敷の清掃活動の後E ボートレースを実施しました。2006年は8月5,6日、猪名川町内にある尼崎高原ロッジと一庫ダムを舞台として実施しました。

### ○様々な取り組みへの参加：

大阪子供の水辺ネットワーク（子供のための水辺活動のあり方など）、猪名川・藻川水辺フォーラム（E ボート体験の提供など）、BYQ スタンプラリー（交流会参加とスタンプイベントへのエントリー）、全国川の日ワークショップ（運営委員）、水郷水都全国大会（2006年9月大阪で実施。実行委員）など

## NPO 法人近畿水の塾、最近の活動です。ちょっとだけ紹介します。

### 近畿水環境交流会 in 和歌山： 2005年8月3、4日（土・日）於：和歌山市文化会館・紀ノ川河口部

◆紀ノ川を舞台として、和歌山大学の水田義一（みずたよしかず）先生、御勢久右衛門（ごせきゅうえもん）先生、養父志乃夫（やぶしのぶ）先生の3人に講演をしていただき、翌日はEボートレースに参加し、なんと優勝しました。チームワークの良さが光ったといえます。よかったです。

この取り組みは実行委員会方式で実施しています。



現場をよく知っている人のお話と、現場で川にはいいながら、Eボートレースはすてきです。



### 拡大版河川塾 映画「阿賀に生きる」を監督と見る： 2005年11月12日（日）

◆新潟大学教授の大熊孝（おおくまたかし）さんと、「阿賀に生きる」の監督である佐藤真（さとうまこと）さんと一緒に、映画鑑賞を行ない、大熊さん、佐藤さんのお話を聞きました。「阿賀に生きる」は、新潟平野を流れる阿賀野川に沿って黙々と働き生きる、田圃づくりの老夫婦、川漁師、船大工などの阿賀の人達を、監督佐藤真さんはじめ、7人のスタッフが3年間現地に住み込んで撮った製作委員会による自主制作、1992年の作品です。登場する阿賀の人達は新潟水俣病患者なのですが、告発物の重苦しい趣はなく、むしろ明るさすら感じます。上手に環境と折り合って住んできた人達。人の暮らしの豊かさとは何なのかを考えさせてくれる映画でした。



### 近畿水環境交流会 in 猪名川： 2006年8月5、6日（土・日）於：尼崎高原ロッジ(猪名川町)・一庫ダム(川西市)

◆一級河川猪名川を舞台として、1日目は高原ロッジ周辺の散策を行ない、猪名川流域で活動する団体の活動報告をいただき、園田学園大学の田辺真人先生に講演していただきました。2日目は場所を一庫ダムに移し、湖畔の清掃活動とEボートレースを実施しました。



### 第22回水郷水都全国会議： 2006年9月16~18日（土・日・月）於：エル大阪 他

◆水郷水都全国会議は、かなり歴史のある全国的な取り組みです。大阪で開催されるということから、「流域委員会から河川管理を考える」という分科会を受け持ち、淀川水系流域委員会の今本博健（いまもとひろたけ）委員長、私たちの会員でもある川上聡（かわかみあきら）委員、武庫川流域委員会の中川芳江（なかがわよしえ）委員の3名に話題提供をしていただき、流域委員会の意義と課題などについて話し合いました。情報提供、合意形成、流域委員会のあり方などについて、活発な話し合いがありました。流域委員会同士の交流会なども可能性がでてきそうです。



流域委員会はたくさんの方が川のことを考えるすごく良い機会だと思います。ぜひ傍聴を。

注：2007年1月30日（火）淀川水系流域委員会は休止となりましたが、今後も継続的な取り組みは期待できそうです。近畿地方整備局のホームページなどに注目したいです。

## 近畿水の塾の役員はこんな人たちです。どうぞよろしく。

理事長 福廣勝介(ふくひろしょうすけ：半公共的な組織の中で働いています。名張から来ています)

副理事長 足立崇博(あだちたかひろ：環境関係の行政職員です。雨水タンクを自宅につけました)

理事 久保田洋一(くぼたよういち：まちづくりコンサルタントです。ワークショップしています)

理事 西河嗣郎(にしかわしろう：河川関係の行政職員です。川や水辺が大好きです)

理事 佐藤拓二(さとうたくじ：公園関係の行政職員です。住民参加と子育てを模索中です)

理事 白樫誠治(しらかしまさはる：福祉関係の行政職員です。猪名川自然林の保全活動をしています)

理事 塚田順一(つかだじゅんいち：土木のコンサルタントでパソコンが好きです。少しお休み中です)

理事 速水成隆(はやみなりたか：港湾関係の行政職員です。大阪湾の再生を目指しています)

理事 安田博之(やすだひろゆき：企画関係の行政職員です。ホームページ見てください。会計もしています)

事務局 澤井健二(さわいけんじ：摂南大学で教えています。Eポートならまかせてください。)

事務局員 出原啓司(いずはらけいじ：大学院でダムのは排砂(はいさ)の研究をしています。今年卒業です)

### 平成 18(2006)年度の主な行事など(7月から。参加も含みます)

#### ◆河川塾

- 7月27日 河川塾：芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」の取り組み。話題提供：中山香代子さん(近畿水の塾、芥川倶楽部会員、たかつき環境市民会議会員)
- 8月22日 河川塾：日本とドイツの水の使い方の差、ヴァーチャル・ウォーター、地球温暖化について。話題提供：伊丹市市民部環境保全課 疋島 巖さん
- 9月26日 河川塾：水郷・水都全国会議大阪大会から得たもの(ここだけの話) 話題提供：久保田一さん(近畿水の塾、近畿地方整備局)、久保田洋一さん(近畿水の塾、まちの会)
- 10月24日 河川塾：道頓堀川を中心として変わりはじめたミナミ 話題提供：横山 葵さん(有限会社エイライン、NPO 法人人と自然とまちづくりと)
- 11月29日 河川塾：仕事の広がり、人つながりから。話題提供：白木江都子さん(貝塚市立自然遊学館、近畿水の塾)
- 12月26日 河川塾：公共交通機関としてのLRTの可能性について。話題提供：石塚昌志さん(堺市技監、近畿水の塾)

#### ◆その他

- 7月23、24日：全国川の日ワークショップ(実行委員参加)
- 8月6、7日：近畿水環境交流会 in 猪名川(前出)
- 9月16~18日：第22回水郷水都全国会議(前出)

「川に学ぶ」活動は続きます。



#### ◆これからの取り組みについて

現在、以下のような取り組みを検討しています。

- おじいちゃんおばあちゃんの仕事と暮らし、川とのつながりをさがす(おじいさんは山へ柴刈りに、おばあちゃんは川へ洗濯に)。
- 川の時刻表のこと。■淀川水系流域委員会のこと。■内山節さんのお話

#### ◆問い合わせ先：近畿水の塾事務局

〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 摂南大学工学部都市環境システム工学科内  
Tel : 090-2196-9594 Fax : 072-839-9124 E-mail : sawai@civ.setsunan.ac.jp

#### ◆編集後記

やっとできましたニュース第1号です。とり急ぎお送りします。郵送も考えたいのですが、費用の点からは、PDF ファイルにして送付することになると思います。内容充実のためにも皆様からの情報提供をいただきたいのですが、会員メーリングリストの方が早い場合も多いので、このニュースは、近畿水の塾を対外的にお知らせするツールとしてご活用いただければ幸いです。それでは次号を期待しないでお待ちください(K.Y.)。